

第3学年

読むこと②

場面の移り変わりに注意しながら、人物の行動、情景、会話などの表現に着目して読むこと

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

中心人物の様子を表す言葉から、中心人物の置かれている状況を想像して、気持ちを書くことができない。

中心人物の思いを深く想像することができていない。

様子を表す言葉
『両手をつないで走り
ました。』

・ちいちゃんは、小さくて走る体力があまりないからです。

この場面で一番大事にする言葉が示されていない。

実践の概要

単元名

場所の移り変わりをとらえて感想をまとめよう

『ちいちゃんのかげおくり』 光村図書

目標 場面の移り変わりに注意しながら、人物の行動・情景・会話などの表現に着目して読む。

内容 学習の見通しをもつ。

- ・人物の行動・情景・会話等の表現から、場面ごとにちいちゃんの気持ちを考える。
- ・ちいちゃんに手紙を書く。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学習内容（単元名）		つまずきの実態
第6学年	宮沢賢治が創り出す世界を味わおう	登場人物の相互関係や場面についての描写をとらえることができず、主題にせまる考えをもつことができない。
第5学年	すぐれた表現に着目して、物語のみりよくを伝え合おう	一方的なものの見方から抜け出せず、主題にせまる感想をもつことができない。
第4学年	読んで考えたことを話し合おう	登場人物の姿・様子について、文中の一部から表面的にしかとらえられない。
第3学年	場所の移り変わりをとらえて感想をまとめよう	中心人物の様子を表す言葉から、中心人物の置かれている状況を想像して、気持ちを書くことができない。
第2学年	音読げきをしよう	叙述に込められている登場人物の気持ちの変化を想像することができない。
第1学年	音読発表会をしよう	場面の様子や登場人物の言動を表す言葉を見つけ、想像を広げることができない。

単元末の目指す姿

- ・めあてを明確にすることで、人物の様子やその時の気持ち、まわりの情景に目を向け、読み進めることができる。
- ・ワークシートを用いることで、場面ごとの中心人物の気持ちの変化を読み取るができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

読み深めるためのめあてを、場面ごとにグループで話し合わせる。

活動のねらい▶ 児童に共通点を考えさせることで、児童が何を読めばよいのか（めあて）を明確にすることができる。

ここがポイント

- 教師が提示した「めあて」について、何について考えればよいかをグループで話し合う。
- 出された意見をもとに、全体で本時の「めあて」について話し合うことで、本時で考えることの具体的な見通しがもてるようにする。
- 具体的にになった「めあて」をもとに読み取りを行う。

授業の様子



たった一つのかけぼうしだから一人ぼっちでしているんだよ。

お父ちゃん
お母ちゃん
お兄ちゃんの声が聞こえてきているよ。

(期待される児童の姿)

根拠となる言葉とその理由を聞くことで、その場面の中心人物の気持ちをより深く想像しながら読み取ることができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

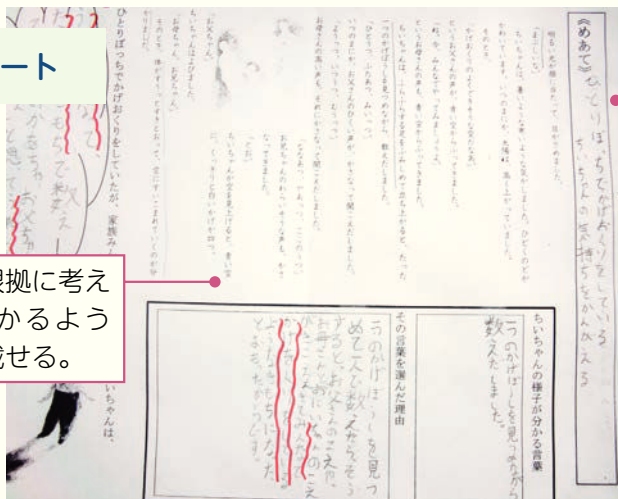
段落ごとに根拠となる言葉を書きとめられるワークシートを用いる。

活動のねらい▶ 「どの言葉」から「どんな気持ち」がわかるのかを明らかにしながら、中心人物の気持ちを読み取らせる。

ここがポイント

本文を載せたワークシートを利用して、段落ごとに根拠となる言葉を書きとめていくことで、本時の「めあて」（中心人物の気持ち）を常に意識しながら、その場面に置かれている心情を細かく読み深めるようにする。

ワークシート



どの言葉を根拠に考えたのかがわかるように、本文を載せる。

児童とともに設定した「めあて」を書きこむ。

(期待される児童の姿)

場面ごとに中心人物の気持ちに寄り添うことができる「めあて」にすることで、その気持ちを深く読み取ることができる。